

マグロはえなわ漁

51091

1 テーマ設定の理由

ぼくは、マグロはえなわ漁という漁をあまり聞いたことのない漁だからどういうやり方で魚をとるのかしりたかったからです。

それに、ほかの漁とどんなふうに魚のとり方が、ちがうのかもしりたかったからです。あと、どんな道具をつかって漁をしているのかしりたかったからです。

さらにぼくは、マグロが好きなので、マグロをとるマグロはえなわ漁に興味があったからです。取材しているうちに、どんどんしりたくなっていったからです。

だから、ぼくはマグロはえなわ漁を、取材したり、いろいろ調べたりしました。

2 研究内容

①マグロはえなわ漁のやり方

一本のなわにつり糸をつけて、その先のつり針にえさを、つけて水中にはりじきをみてひきあげます。

②マグロはえなわ漁の船

マグロはえなわ漁の船は、大きいものもあるし、中くらいのもあるし、小さいものもあります。

小さい船は、5人～7人です。

中くらいの船は、13人です。

大きい船は、20人以上です。



③マグロはえなわ漁でつかう道具

次は、道具の説明をします。とおなわきという道具を説明します。とおなわきは、マグロはえなわ漁でつかう、はえなわをセットするときにつかう道具です。この写真は、とおなわきです。



④マグロはえなわ漁でつかう道具

次は、ラインホーラーという道具です。ラインホーラーはとおなわきで、セットしたはえなわをまきあげる、ときにつかう道具です。ほかにもいろいろな、道具があります。下の写真がラインホーラーです。



⑤マグロはえなわ漁でつかうえさ

マグロはえなわ漁でつかうえさは、イカ、サバ、アジ、サンマなどです。

3 今後の課題

マグロが少ないなかで、マグロをとる人たちは、とり続けるためにどんな工夫をしているのか、疑問におもい、どんな取り組みをしているのか調べました。

クロマグロは2種類います。大西洋クロマグロと、太平洋クロマグロです。大西洋クロマグロは、資源が回復しているようです。資源が少なくなってきたときに国際的に約束を決めて、捕る量を制限したそうです。それから、稚魚は捕らないという約束も国際的に決めて資源を守ってのだそうです。お話を伺って臼福さんは「捕ったマグロにタグをつける。」ともおっしゃっていました。国際条約を決め、誰が捕った魚なのか証明し、小さいマグロはとらないなど、資源を増やす努力をしたそうです。

しかし、最近、少なくなっているのが太平洋クロマグロだそうです。捕る数を決めるなどのきまりはあるそうですが、守っていくことは難しいそうです。将来につなげる捕り方を考え、しっかると話し合う必要があるそうです。

4 感想

ぼくは、漁のやり方や、漁船について父にききました。父は以前漁船にのったことがあるからです。分かったことは、マグロはえなわ漁につかう道具は、とおなわき、ラインホーラーほかにもいろいろあることが分かりました。さらに、マグロはえなわ漁につかうえさは、イカ、サバ、アジ、サンマだということです。それにこの漁のやり方や、船のことです。それにこの漁で魚がいっぱいとれます。豊かな海は魚がいっぱいとれる海だとおもうから、豊かだと思います。さらに興味をもったことは、船の操作についてです。

また、今後の課題を調べながら、今も、そしてこれからも漁業が続けられる

ことが必要だと思いました。捕った魚を大切にしながら、無駄のない漁業をしていかなければならないと思いました。

マグロはえなわ漁でつらかったこと、うれしかったことも聞きました。つらかったことは、魚があまりとれなかったとき、つった魚の値段が低いときです。うれしかったことは、魚がいっぱいとれたとき、つった魚の値段が高いときのなだそうです。